

労働組合があれば・・・

労働災害は起こらなかった！

サムスン半導体被害者の訴え

労災職業病の問題として日韓民主労働者連帯と関西労働者安全センターの共催で、サムスン電子半導体被害者とパノリム（半導体労働者の健康と人権を守る会）の活動家を招請し「なくそう労災職業病」交流会が3月13日（水）エルおおさかにて開催された。

被害者の声をドキュメンタリー映画化した「クリーンルームの話」の中で故キム・ジンギさん(38)の妻は「夫は自分の身体がおかしくなるとは思いもしていませんでした。体調が悪くなっても労災扱いになったら、会社の人に悪い印象で見られるかも知れない。だから労災申請することは考えなかった。でも、急に状態が悪化して私が誰だかも判らず亡くなった」と語り、残された子どもたちとこの先どうすればいいか考えもできませんと語られた。



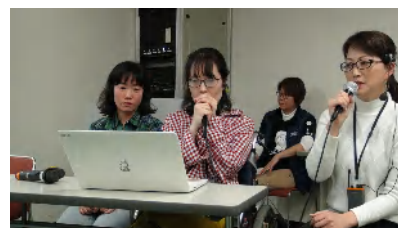
通訳の呉民淑さん（左）と被害者ハン・ヘギョンさん（右）

サムスン電子の担当者は、ほとんどの被害者に「労災申請されてもいいですが、労災申請しても通らない可能性が高く補償金もかな

で一段落し、サムスン電子のキム・ギナム代表取締役が謝罪した。



労災職業病の国際情勢について古谷杉郎氏（全国労働安全衛生センター連絡会議）から、世界で苦しむ労働者への支援活動の報告があった。



この日のために何度も練習したそうです。

		発病時	パノリムの活動で裁判所と政府は電子産業の職業病を公式に認め始めた。
2013年	キム・ジンギさん	38才死亡	勤労福祉公団は白血病とメグナチップ半導体での業務との関連性を認めた。
2014年	ファン・ユミさん	22才	ソウル高裁は白血病とサムスン半導体での業務との関連性を認めた。
2016年	パク・ヒョンスンさん	28才	勤労福祉公団は悪性リンパ腫とサムスン半導体での業務との関連性を認めた。
2017年	キム・ミョンさん	20才	ソウル高裁は多発性硬化症とサムスンLCDでの業務との関連性を認めた。
2017年	キム・ミョンさん	34才	勤労福祉公団は不妊とサムスン半導体での業務との関連性を認めた。
2017年	キム・ソンギョさん	35才	勤労福祉公団は悪性リンパ腫と SKIハイニックス半導体での業務との関連性を認めた。
2017年	イ・ウンジュさん	36才死亡	ソウル高裁は卵巣癌とサムスン半導体での業務との関連性を認めた。
2017年	イ・ヘジョンさん	24才	最高裁は多発性硬化症とサムスンLCDでの業務との関連性を認めた。
2018年	イ・ヘジョン	36才死亡	イ・ヘジョンさんは、全身性硬化症で、この映像を編集している途中で亡くなりました。
最高裁もまた企業が情報提供を拒否した場合 労働者に有利に判定すべきだという判決を出した。			
パノリムに情報を提供してくれた 電子産業の職業病の被害者は 数百人になります。			
パノリムの活動で 裁判所と政府は 電子産業の職業病を 公式に認め始めました。			

り少ないですよ。だから私たちが補償金を出します。労災申請をしなければ会社から慰労金を出します」と言われた。まさに労災隠しである。

11年ぶりに勝ち取った！

参加したハン・ヘギョンさん（半導体被害者/脳腫瘍/発病時27才）は「重要なことは私のような痛みで苦しむような人が出ないこと」と集会で訴えた。

被害者とその家族は数え切れないほど騙され侮辱されながら11年間にわたり活動をしてきた。

そしてサムスン半導体白血病事件は2018年11月23日、サムスン電子・パノリム仲裁判定履行』合意

2007年にファン・ユミさんが白血病で亡くなり、提訴していた中、2011年に労災認定された。それから、パノリムには600件を越える被害情報の提供が殺到し、合計137名の職業病被害者と一緒に、労災申請をした。

日韓労働者連帯代表の中村 猛さんは「サムスン電子に労働組合があれば、被害者を出すことはなかった。日本国内でも「安全なくして労働なし」という認識を持ち、労働組合の重要性を訴えた。

最後に、このドキュメンタリー映画に、日本語字幕を加える作業（翻訳は呉民淑さん）のに約20時間を要したが、全国で多くの人びとに見てほしい内容になった。

（執行部 陣内恒治）

辺野古はNO! 朝鮮半島に平和を！

— 650名が参加 —

「大阪平和人権センター」「しないさせない戦争協力関西ネットワーク」「戦争をさせない1000人委員会」の主催で、3月24日エルシアターで「とめよう！戦争の道めぞう！アジアの平和2019関西のつどい」が650名の参加で開催されました。

陣内恒治副委員長と久喜里麻衣さん（大阪教組）が司会進行する中、開会あいさつで米田彰男さん（大阪平和人権センター）から、「統一地方選挙並びに夏の参議院選挙は野党共闘に多少の問題があるにしても現在の安倍政権や大阪維新の会に『NO』をつきつけ選挙闘争に勝利しよう」と力強く話されました。

続いて、徐勝（ソ・スン）さん（韓国又石（ウソク）大学教授・東アジア平和研究所所長）が、「朝鮮半島南北和解・協力と東ア

ジアの平和」について話され、日・韓・中・米・ソによるさまざまな対立関係にある国際情勢や各国の対外敵視政策の内容を専門家の目線で解説されました。続いて、在日韓国青年同盟大阪本部（韓青同）によるサムルノリ（「サムル」とは四物（サムル）は杖鼓・太鼓・鉦・銅鑼の4種の打楽器のことで、「ノリ」は遊び、または演戯の意味）の演奏があり、朝鮮の歴史の一つを若い人たちが受け継いでいることに大変感銘を受けました。

沖縄からは、元山仁士郎さん（辺野古県民投票の会代表）が「辺野古県民投票の結果とこれからの闘い」について話されました。名護市辺野古の新基地建設の埋め立ての賛否を問う県民投票にむけ、昨年5月から7月までの2ヶ月間で、法定必要署名（沖縄県の有権者の50分の1＝2％である

「23, 171筆」をはるかに超える100, 950筆を集め、県民投票条例の制定（10月31日公布）を勝ち取りました。



元山仁士郎さん

しかし、自民党寄りの市長（宮古島市、宜野湾市、石垣市、沖縄市、うるま市）が県民投票の不参加を表明したことにより、1月15日から、元山さんは抗議のハンガーストライキをおこないました。また、多くの支援者や各方面の努力もあり、賛成・反対に「どちらでもない」を加えた条例改正（1月31日公布）にこぎ着け、2月24日県民投票が行われることになりました。

県民投票の結果は、投票率：52.48%（60万5386票）反対：43万4273票（投票総数の72%）賛成：11万4933票（投票総数の19%）どちらでもない：5万2682票（投票総数の8.7%）となりました。

続いて、大森正子さん（辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動）と、福嶋聡さん（全日建連帯労組・関西生コン支部）から連帯アピールがありました。

集会終了後、西梅田公園までシユプレヒコールをしながら元気よく沿道の市民に広く訴えました。

（執行部 國分仁昭）

